

清須学推進会議 第1回会議 議事録

日時	平成28年8月9日(火)午前10時～11時45分		場所	本庁舎2階 小会議室
出席者	推進会議委員	加藤 富久 委員（郷土史家） 横井 敏雄 委員（清須市ガイドボランティア 会長） 加藤 暉夫 委員（清須市ガイドボランティア 副会長） 田中 孝則 委員（清須市ガイドボランティア 班長） 箕浦 信夫 委員（西枇杷島町山車保存会・西枇杷島町まつり振興会会長）[会長] 山田 功 委員（中日信用金庫 理事長） 奥田 雅朗 委員（清須市商工会 事務局長） 石田 隆 委員（清須市観光協会事務局長（清須市産業課長））[副会長]		
	清須市	事務局（企画部企画政策課）		

1 開会

事務局

皆さんおはようございます。

お忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございます。

お時間となりましたので、ただいまより「清須学推進会議」の第1回目の会議を開催させていただきます。私は、事務局を担当いたします企画政策課の藏城と申します。本日、この会議の進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日の会議の内容につきましては、お手元に配付させていただいております「次第」のとおりに進めたいと思います。

なお、本日の会議は2時間程度を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、まずお手元の資料の確認をさせていただきます。

資料の方、不足等がございましたらお申し出いただければと思いますが、よろしいでしょうか。

では、進行を続けさせていただきます。

まず、「1 開会」ということで、事務局を代表して企画政策課長の河口よりごあいさつを申し上げます。

○あいさつ

事務局（河口課長）

皆様おはようございます。企画政策課長の河口です。

委員の皆様におかれましては、ご多忙の中ではありますが、「清須学推進会議」の委員をお引き受けいただいたことに、まずもってお礼を申し上げます。

そして、ここ数日かなりお暑いですが、そうした中、本日の会議に出席していただ

たことに、併せてお礼を申し上げたいと思います。

さて、清須市では昨年度、平成28年2月28日に清須市の人口ビジョン、そして、清須市のまち・ひと・しごと創生総合戦略を策定させていただきまして、本年度から本格的に地方創生に取り組んでいるところです。

そして、その中の一環といたしまして、今回の清須学推進事業は地方創生に係る新規事業として取り組むことになっております。この事業におきましては、予算の確保等々の過程で事務局としてはこういった形でやりたいといった説明を外向きにはさせていただきましたが、実質その詳細をどのように詰めていくかという点につきましては、この清須学推進会議において皆様からご意見をいただきながら、積み上げていきたいと考えております。

本日お越しいただいたメンバーの方々につきましては、清須市の地方創生、特に観光分野におきまして、日頃からご尽力いただいている方ばかりです。皆様のご意見を聞きながら、この事業を成功に向けて進めていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いしたいと思います。

誠に勝手ですが、私ちょっと別件で、他の会議と重複しておりますので、ここで退席させていただきます。いろいろなご意見を頂戴して、ディスカッションの方を進めていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

ここで失礼させていただきます。

○ 委員紹介

事務局

それでは、引き続きまして会議の方を進めさせていただきたいと思っております。ここからは委員様のご紹介等をさせていただきますので、座ってご説明をさせていただきたいと思っております。

まず、議題に入ります前に、本日配付させていただいております「第1回会議名簿」をご覧くださいと思うのですが、こちらの名簿にしたがいまして、私の方から委員の皆様のご紹介をさせていただきたいと思っております。

まずお1人目の方。本日は他の公務によりご欠席ではございますが、愛知県教育委員会文化財保護室の原田幹様です。原田様は、学芸員としまして愛知県教育委員会にお勤めで、朝日遺跡研究のスペシャリストでいらっしゃいます。9月17日に開催予定の「清須学開講記念シンポジウム」におきましてもパネリストとしてご登壇いただくほか、テキストの執筆等、広く様々な形でご協力いただく予定でございます。

続きまして、本市の関係団体の代表の方といたしまして、清須市ガイドボランティア様よりご参画いただく委員の方々をご紹介したいと思います。

清須市ガイドボランティア様は、平成22年度から活動されている清須市観光協会所属の団体様で、これまで清洲城界限を中心に精力的に活動されており、本市の観光振興に多大なるご貢献をいただいております。

このたび、その豊富な経験を基に様々なご意見をいただくため、本会議へのご参画をお願いいたしましたところでございます。

それではまずお1人目、同会の会長をお務めでいらっしゃいます横井敏雄様でございます。

横井委員

横井です。よろしくお願いいたします。

事務局

続きまして、同会副会長の加藤暉夫様でございます。

加藤（暉）委員

加藤といいます。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局

続きまして、同会班長の田中孝則様でございます。

田中委員

田中でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局

続きまして、西枇杷島町山車保存会及び西枇杷島まつり振興会会長の箕浦信夫様です。

箕浦委員

箕浦でございます。よろしくお願いいたします。

事務局

箕浦様は、清須市ガイドボランティアでも会員としてご活動いただいている他、清須市文化財保護審議会の委員もお務めでいらっしゃいます。そして、200年以上の伝統を誇る「尾張西枇杷島まつり」を主催されるとともに、本市の指定文化財であります5輻の山車を管理する山車保存会の会長をお務めです。

続きまして、郷土史に造詣が深い加藤富久先生です。

加藤（富）委員

加藤でございます。よろしくお願いいたします。

事務局

先生におかれましては、元愛知県立高等学校の教諭でいらっしゃいまして、長年旧清洲町地区を中心とした郷土史の研究を続けておられます。また、清須市の文化財保護審議会委員もお務めです。本事業には、本会議のみならずシンポジウムへのご登壇のほか、テキストの執筆等、広く様々な形でご協力をお願いいたしております。

続きまして、本日はご欠席でございますが、キリンビール株式会社名古屋工場の山本武司様です。キリンビール様の名古屋工場では年間10万人以上の工場見学者の方が訪れておられ、併設されたレストランとともに本市を代表する観光資源を運営してみえます。また、山本様におかれましては昨年度から、清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議の委員をお務めいただきまして、観光振興分野を中心に様々なご提言をいただきました。本事業にも、講座内容を含め、様々な形でご協力をお願いしております。

続きまして、中日信用金庫理事長の山田功様でございます。

山田委員

山田です。よろしくどうぞお願いいたします。

事務局

中日信用金庫様におかれましては、本市発祥の金融機関としまして、地域の経済事情に精通してみえます。また、これまでも様々な形で積極的に市政協力をいただいております。昨年度から清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議の委員をお務めいただいております。本事業の着想についてもご示唆をいただきました。山田理事長様には本会議のみならず、シンポジウムへのご登壇もお願いいたしております。

続きまして、清須市商工会事務局長の奥田雅朗様でございます。

奥田委員

奥田です。おはようございます。よろしく申し上げます。

事務局

商工会様は、地域唯一の総合経済団体としまして、地域の発展と活性化など、幅広い事業活動を推進してみえます。また、奥田様には昨年度、まち・ひと・しごと創生総合戦略策定にかかる戦略提言会議にご参画いただきまして、観光振興について様々なご提言をいただきました。本事業についても、本会議へのご出席、ご協力をお願いいたしております。

最後に、清須市観光協会事務局長で、本市の産業課の石田課長でございます。

石田委員

石田でございます。よろしく申し上げます。日頃は観光振興にご理解、ご協力を賜りありがとうございます。引き続きご協力の方をお願いいたしたいと思っております。よろしく申し上げます。

事務局

本会議においては、観光協会事務局の立場でご参画をしていただきます。

以上、ご紹介をさせていただきました10名の委員様でこの会議を構成させていただきます。

本日はお二人の欠席者がおみえですので、8名の委員様で会議を開催させていただきます。

皆様どうぞよろしくお願ひいたします。

なお、本日は過半数の委員の方々にご出席いただいておりますので、清須学推進会議開催要領第5条の規定によりまして、本会議は成立いたしますことをご報告させていただきます。

○ 会長選出

事務局

それでは、議題に入ります前に、この会議の会長及び副会長を選出したいと思います。

お手元の配付資料の「清須学推進会議開催要領」をご覧ください。

選出方法につきましては、同要領の第4条に基づきまして会長は委員の互選により選出をし、副会長においては会長の指名により選出することといたします。

どなたか会長にご推薦をしていただける方がございましたら、お願いします。

加藤（富）委員

箕浦委員さんをお願いしたいと思いますが、いかがですか。

事務局

ありがとうございます。ただいま加藤富久委員より、箕浦委員を会長にとのご推薦をいただきました。他にご推薦はありますか。

では、他にご推薦はないようですので、箕浦委員を会長として選出することに異議はございませんでしょうか。

（「異議なし」の声）

事務局

ありがとうございます。それでは、箕浦委員を会長に選出することといたします。

それでは、箕浦委員におかれましては会長席へご移動をお願いしたいと思います。

それではここで、会長に選出されました箕浦委員から一言、ごあいさつを頂戴したいと思います。箕浦会長よろしくお願ひいたします。

箕浦会長

おはようございます。メンバーの方を見渡しますと、私が一番年が若いような気がいたします。こんな若い人がやっていると、非常に悩みます。

これからも清須のことはまだまだやらなければならないことがたくさんあると思います。清須という地名は、日本全国どこに行っても恐らく知らない人がいないぐらい、よく知っておみえになります。それは信長を知っているから知っているという方がほとんどであります。それほど知名度の高い街ですので、まだまだ隠れた文化財、隠れたものいっぱいあると思います。

皆様のお知恵をお借りしてこの会議が成功裡に終わりまして、清須市の市民のために役立

つことになるといいと考えております。どうかよろしく願いいたします。

(拍手)

事務局

ありがとうございました。

それでは引き続きまして、副会長を選任したいと思います。箕浦会長、どなたかをご指名ください。

箕浦会長

申し訳ありませんが、できれば石田さんをお願いしたいと思います。

事務局

ありがとうございます。

それでは、箕浦会長のご指名により、石田委員を副会長に選出いたしたいと思います。

では、石田委員におかれましては副会長の席へご移動をお願いしたいと思います。

それでは、委員の皆様のご協力によりまして、滞りなく会長及び副会長を選出することができました。ありがとうございます。

2 議題 清須学推進事業の基本的方向性について

事務局

では、前置きが長くなりましたが、早速議題に入らせていただきたいと思います。

「次第」にあります「2 議題 清須学推進事業の基本的方向性について」の議事の進行につきましては、お手元の資料に基づきまして、事務局より一括して説明をさせていただいた後、各委員の皆様から順次、ご意見を頂戴したいと思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは、まず事務局より本日の資料についてご説明をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○資料説明 (事務局)

資料1 「清須学推進事業について」

資料2 「清須学講座構成について(案)」

資料3 「マイスターについて(案)」

資料5 「年間スケジュール(案)」

参考資料「他団体の類似事業について」

○意見交換

事務局

今、事務局の方から資料の方を説明させていただきました。

まず、本日の会議、お集まりいただき、基本的な考え方をお示しさせていただいたわけですが、この内容について、今後進めていくに当たって、皆様からいろいろなご意見を頂戴できればと思っております。

今説明をさせていただいた内容について、清須学講座とマイスターについてということで2点、大きな内容がございます。

ご意見はたぶんいろいろあるかと思いますが、お1人5分程度を目安にご意見を頂戴できればと考えております。ご発言につきましては、皆様からいろいろなご意見を頂戴したいと思いますので、大変恐縮ではございますが、加藤富久委員から時計回りで順番にご意見をいただければと思います。どんな些細なことでも結構ですので、ご意見を頂戴したいと思います。よろしく願いいたします。

加藤（富）委員

最初の意見として適切かどうか分かりませんが、清須学という題を出されて、一体何を一番の基本にされているのか。これを見せていただきますと、誇りを醸し出すための道筋。それを、講座を持つことで、資料1の方には出てはおりませんが、要するに講座の後、検定を受けるということになるわけですね。

検定ということについては、個人的にはあまり好きではないですが、周辺の市では、だいぶ前に地域検定を進めている中で、今になってかという感じがしないでもないのですが、勉強するということについて、早くも遅くもなくいいことですので、何か勉強をしていくという機会になることについては、それは進めていっていただいていいかというようなふうに、私も思っております。

事務局

ありがとうございます。では続きまして、横井委員、何かご意見があれば。

横井委員

私、ガイドボランティアをずっとやっておりますけれども、清須について学ぶことがたくさんあったし、これからもたくさんあると思います。ここで清須学という言葉は初めて聞きましたので、清須学という今までなかった考えで、新しい光を当てるということを言ってみえますよね。新しい目で街を見ると。新しい手法を注入すると。こういうことが書いてあるわけです。

なるほど、そういうことをやらないと今の現状を打破していくということではできないかなと、そんなことを考えたのですが、確かに今まではあまり清須は盛り上がっていないという現状がありますので、清須学ということを立ててね、これから新しい局面を切り開いていくきっかけになればという期待は持っています。

その中で、地域資源のポイントとかと書いてありますけれども、地域資源のポイント、幾つ

かたぶんあると思いますが、どういうことで集約されていくのか。確かにあれもこれもというわけにはなかなかいかないので、朝日遺跡、清須城、美濃路、たぶんこういふことだと思ふのですけれども、他にもたくさんあると思ふんです。この辺の地域資源をどうやって絞って、どういうふうに展開していくかということですね。その辺が私自身、どういうふうにやっつけられるかなというところがあります。

講座の構成については、「美」と「都市」という2つの観点を導入された。この観点も非常に、新しいというか、私にとっては非常に斬新だなと感じました。「美」と「都市」。人間の歴史の中でそういうのは非常に長い歴史があるわけなので、それを清須について、こういう2つの観点で取り組むということには私は賛成です。

1案、2案、座学中心かワークショップ中心かという問題提起をされていますが、基本的にワークショップは大変だろうということです。期間が、たぶん決まっているので、ある程度余裕があれば、ワークショップで立派なものを作って、それを実際に清洲城で活用していくということも十分考えられるのです。だけど、それがどのレベルのものができるのか分からないのに、それをすぐ現場で使えといっても、受講者の方もちょっと引いてしまうのではないかという感じがあります。私は、座学中心でまず進めたらどうかという意見です。

基本的な考え方は私は賛成ですけど、「都雅性を有する成果物」ということが、これが見落とされていると書いてありますが、これは、どういうものが見落とされているのですか。質問です。

事務局

具体的に申し上げますと、例えば近いところで清須城のお話ですが、金箔の付いた瓦が出るお城というのは全国でも数えるほどしかないのだというお話がありまして、正確にいうと20、30という数字になってくるという話を学芸員から聞いたのですが、一般的に城趾、城の跡といわれる遺跡というのは細かく数えていけば万単位で全国には存在する。その中で、わずかにそれぐらいしかない、2桁しかないというもののほぼ中心的なものがここから出るということで、それだけ人々の生活が集約した場所、また人々の目に触れる場所にあったお城であるということの証明である、権威の証でもありますので、まずこの辺りが当時の美術の粋を尽くしたものであるということがいえるかと思ひます。

また、朝日遺跡につきましても、私は門外漢でございますが、当時のこの辺りは東海地区では最大規模の環濠集落都市でございます、様々な装飾品が出土しております。そして、外から石材を持ってきて、ここで加工していたという跡があるそうでございまして、美術品というふうな見方を今日してもいいようなものが、たくさん出土していると伺っております。以上でございます。

横井委員

はい。そういう金箔瓦とか、例えば朝日遺跡のパレススタイル土器とか、その他装飾品ですね。そういうものがあまり知られてないという意味ですか。「都雅性」なんていう言葉もあま

り知らないの聞いていますのですけれど。確かにそういう面はありますけれども。金箔瓦は「清洲ふるさとのやかた」にも展示してありますね。だから金箔瓦は我々も大事にしているのすけれど、確かに見落とされている部分が他にもあるということだと思ひます。

それから、マイスターです。資料3です。基本的には、他にプロフェッサーとか、コンシェルジュという名前もちょっと使えないから、マイスターにするしかないかなという感じはいたします。

講座の修了試験とマイスター認定試験の2部構成にするというお話ですね。要するに、親しみやすさとマイスター人材の権威を両立させたいということですね。そういうことであれば、2部構成もいいかなと私は考えました。以上です。

事務局

ありがとうございます。続きまして加藤委員様。

加藤（暉）委員

今回のこの清須学につきまして私どもガイドボランティアとしては、もっと早くこういう講座があつてほしかったと率直に思つておりました。

今回こういうのをやつていただくという形で、清須市のためによくなるということは非常にいいことだと、まず第一に思ひます。

我々としては何をやつていったらいいかということをおなりに考えてみました。そうしましたら、清須市の魅力とは何だろうか、魅力を徹底的に追求して全国に発信していく。そういう事業がひとつの方法ではないかと思ふのです。例えば、市の歴史・文化を市の発展のために役立たせる。私たちがガイドボランティアをやつておりました、ときどき感じることです。これは、県外からお客さんが来られるのは、どうして清須に県外から来られるかということをお、ときどき思ふわけですね。そうしますと、先ほども話がありましたように、清須と言へば信長、信長と言へば清須、と言われるように、信長の清須の歴史や遺跡を知りたいと思つてお客さんが来られる。例えば、前に「清須会議」という映画がありましたけれど、あの時は北海道から九州まで来られたのです。我々もびっくりしたのですけれども。信長、それから天下統一の発祥の地という形は、清須は全国どこにもないところだということだと思ふのです。これを歴史・文化のひとつとして追求していったらどうか。

さらに付け加えれば、最近、香港や東南アジア、中国からもお客さんがときどき来られます。昨年のお、私がたまたま「ふるさとのやかた」に人から預かつてもらった物を取りに、朝9時に、開くのを待つて9時に行ったのです。そうしましたら、大手橋の上に外国人が3人おられたのです。「早いな」と思つて、少しだけ、どうしてここへ来られたのか聞いてみようかと思つて、その方に聞いたのです。どちらから来られたんですかと聞きましたら、フランスから来ましたと言われるのです。フランスからどうして清須に来られたのですかと聞きましたら、清須というのは戦国武将で一番有名な織田信長の生まれ故郷でしょうと。勝幡はちょっと別にして、この一帯、全体ですね。信長の生まれ故郷でしょうと。一番有名な戦国武将の生まれ故郷

を見てみたかったと言われたのです。我々がフランスの歴史上の人物でナポレオンを思い起こしますけれども、ナポレオンの生まれ故郷を見てみたいと思うのと同じような感覚ではないかと思ったのです。

「戦国武将で一番有名なのは信長でしょう」とフランスで言われているのだったら、ドイツやイタリア、他の国でもひょっとしたら言われているのではないかと思います。清須の魅力は何だろうかと考えたときに、信長や織田家の関係した歴史・文化がここには残っておりますし、古城跡もありますし、信長像もあります。シンボルの清洲城、これは後から作ったものですがけれども、こういうものを他の地域から来た人たちにもっと紹介して、他府県からお客さんを清須に引き込む。

また、朝日遺跡のところでは新しい建物が作られる。平成32年だからもうちょっと先ですけども。全国屈指の大集落の遺跡がある。これは清須の宝のような感じだと思うのです。

清須は、JRの駅もあるし、名鉄の駅もある。地理的な条件もいい。お客さんを引き込みやすい場所ではないかと思うわけです。この資料に教育という言葉が出ておりましたけれども、教育的にはガイドボランティアで、地元を知って地元を愛する心を育てるということを考えまして、昨年、県立新川高校の1学年320人を案内したのです。その時に、2班に分かれて案内しましたけれども、先生とずいぶん何回も話し合いをして、新川高校の方から質問を40項目ぐらいもらいまして、その質問に答えると同時に案内するというような形をやりまして、その後新川高校の中で、班別に分けて発表会を行なう予定でと言われたので、我々としては質問及び案内した場所の資料をたくさん集めまして、それを資料として作って全員に配布しました。その発表会も非常に充実していたと言われたのですけれども、後から地域学習の探求のために非常に役立ちました、ありがとうございますと言って、校長先生と教頭先生がお礼に来られました。我々もやってよかったということと同時に、毎年やるなら我々が案内しますのでお願いしますと言いましたら、今年もお願いしますと言って10月に2回に分けて320人の学生を案内することにしています。

やはり、この土地柄は歴史・文化の宝庫ではないか。西尾張のガイドボランティアの会議があります。例えば弥富市さん辺りは、案内する場所がないのですね。金魚の品評会か何かの時にお客さんを案内するとか、愛西市の方に行っても、木曾川の川下りで案内するとかいう形で、あまり案内することがないけれども、清須市さんはいいですねというようなことを言われたことがあります。

だから、やはりそういうのは我々の宝だと思いますので、全国からお客さんをここに引き込みまして、清須の発展のために役立てるという形を、ぜひともこういう会議を通じてみんなでアイディアを出し合って、やっていくといいだろうと思います。以上です。

事務局

ありがとうございます。では続きまして田中委員さん。

田中委員

今話も出ましてあれですが、ちょっと違ったことをお話ししたいと思います。

この案といいますか、今まで苦勞してここまで作り上げていただいたことに対してはお礼を申し上げなくてはいけないと思うのですが、私どもさっきから言っていますように、清須市の教育委員会が事務局になりまして清須市ガイドボランティアを育成するという講座が、平成21年ですから2009年だったか、2010年の清須越しのためにガイドする人を養成するということが1年前からありまして、講座がステップアップというような言い方も含めて、第1期生は大体1年半、20回に分けて講座を受けているわけですが、講習を。今回、いろいろなことがあると思うのですが、見させていただくと、ターゲットは教職員の方も含めてということを書いて、やはり土日がいいだろうと。そういうことですね。平日にやるとそういう方は出られない。私どもの時は、年寄りが遊んでいてはいけないからスタートしたと思うのですが。たしか講座は水曜日でした。要するに土日にはなかったのです。その時も40人くらい最初は集まったと思うのですが、現在はだんだん年を取ってきまして、私も含めて活動がしにくくなってきて、今回やっていただいて新たに講座を受けていただいた方をボランティアの方に入っていくように斡旋するということを書いていますね。そういう趣旨のことです。

何が言いたいかというと、土日やるということと、全6講座しかない。12月から2月の3カ月間で月2回ということですね、予定をしてみえるのは。あまりにも少くないかと私は言いたい。これでいいのですか。ペーパーテストをして、2段階に分けて、人員の予定も大体40人くらい来てくれるのではないかと予測してみえるわけですが、実際は分からない。もっと多いかも分からないし、半分くらいしか来ないかも分からない。これは分からないですけど、一応40人を目標にしてみえますね。

今現在、私どものガイドボランティアの中でも、お勤めしてみえる方もあります。だから、活動するのは土曜日とか日曜日しか活動できませんという方もみえます。今回、今言いましたように書いているのは、学校の先生にも受講をする機会というのですか、年寄りばかりでなくて勤めている人もやってもらったらどうかという意味で、土日をやって、全6講座をする。せめて8講座くらいにならないか。3月まで延ばせばできるわけだから。こんなことでやって形式的にペーパーテストをして認定するというのはいかがなものか。私たちは1年半行っているのですよ。私らもテストがありました。一応、形式的ですけど。それで教育委員会から認定をもらっているのですけれど、改めてこういう、マイスターという称号を付けて、気持ちをくすぐって、格付けするということで、その中でも40人くらい、この案でいうと講座を受けられた方の中で10名程度を認定すると。そういう案になっていますね、今。中にはこういう講座だけ面白いから受けようという人もいると思う。ガイドボランティアにはなりたくない。テストをされて、選別されて、10名ほど認定して、例えば40人のうち30人は講座を受けただけで、ガイドボランティアには、もし私たちの団体であれば門戸を開いていますから、みんな来てもらえばいいと思っている。マイスターになった人だけじゃなくても、ボランティアをやってあげようという意欲がある方だったら、来てもらった方がいいですね。だから、差を付けるというのはいかがなものかという気もするのです。40人受けて、10人だけくらいで、ち

よっと難しいテストをやって点数を取れた人にだけマイスターという称号を与えますというのは、今のこの時代でそういうことはいいのかと危惧をします。今現在、私どものガイドボランティアの人たちはどうするのかということも含めて。

ガイドを今やっている中でも、実際には活動しているのは22名なのです。実際やっているのは10人くらい。言いにくいんだけど。ほんとに。月に1回でも出てくればいい方。そういう状態になっているのです、現実。だから、先ほど加藤副会長が言いましたけれど、こうやって、やってもらうのが少し遅かった、行政でたまたまタイミング的に地方創生ということで取り組んでいただいて、全体の中のひとつとして取り組んだわけでしょう。それはそれでありがたいことだと思っていますけれど。

まず、2点。6講座くらいで土日でもいいのかということと、それから、差別化して、例えば40人受けて10人だけはちょっと格が違うよと。その10人はいいです、優越感があって。あと30人の人はどうするか。そんな差を付けていいのか。その2点、特に。

それと関連して、ワークショップというのは活発に意見を言える方もあるし、そうじゃない方もあるから、やはり私も座学とフィールドワークだけを取り入れた方がいいと思います。以上です。

事務局

田中委員からご指摘のありました2点につきまして、現時点での事務局の整理は、会議全体のまとめの後、持ち帰って上席の者ともしっかりと検討したいと思いますが、ご指摘のとおり6講座では少ないのではないかと。清須の歴史的なスケールに関して、6講座で吸収しきれないわけではないことはごもっともだと思います。

そういう意味では、あまりにも短期促成にすぎるところはあると思いますが、ガイドボランティア様の育成講座と今回の清須学講座の違いを申し上げますと、この清須学講座は、歴史について博学な方を育成しようというわけでは必ずしもなくて、清須について好きになっていただく。好きになっていただいたら、自分で勉強してどんどん発信していただく。そんな方がこれをきっかけに関わっていただけるようになればという願いを込めてやっていくものでございまして、本来、半年なり1年なり1年半といった長期スパンで10講座、20講座組むのが、知識体系的にはごもっともかと思いますが、そういう意味では博学の人をいきなり育てるというものではないというところを、この清須学のある種の限界といえは限界なのですけれども、主眼が少し違うというところが1点ございます。

もう1点が、マイスターというふうに差別化してしまうことで、悪くいえば認定されなかった方の士気が削がれるのではないかと、社会参加してもらえそうな方だったのに結果としてガイドボランティアにもなってもらえなくなってしまったらどうなるのだろうというご心配かと思えます。そういったところをしっかりと受け止めまして検討を進めてまいりたいと思いますが、修了試験とマイスター認定試験とを分けたのは、その辺りへの配慮を多少は考えたところございまして、修了試験を受けていれば、とりあえず清須学講座は修了しましたと言える方ですので、マイスターは全員強制の参加ではなく、チャレンジしたいという方がチャレンジできる

という任意性ですので、そういう意味においては、ある方は修了証は持っているけれどマイスター試験は落ちてしまったという方もいらっしゃるかもしれませんが、そこは翌年度チャレンジしていただくなり、そういった要素なのかなというふうには思いますが、田中委員のご意見はしっかりと受け止めまして、次回の会議までにまた整理したものでご提示したいと思います。

田中委員

お願いします。

事務局

では、続きまして奥田委員様、ご意見をお願いします。

奥田委員

清須学の構成とマイスターの認定ということで意見を出してくださいということですので、まず清須学の講座なのですけれども、受講者のターゲットをみさせていただくと地域資源に関心のある方ということで、こういった方が応募されて、清須学として学ぼうという方が多いと思います。その中の構成は、ワークショップを入れるとハードルが高くなる、大変だというようなことになるとは思いますけれども、この中でワークショップ3講座、コーディネーターの手配もするというので、適切なコーディネーターの方がいらっしゃれば、ワークショップでの発表が苦手という方もそういった方のいろいろな助言があれば、適切な成果物を出していただけますので、清須学ということで出していかれるのであれば、ワークショップ中心の構成として成果物の方を出していただけたらと思います。

こういった地域学は、各地の商工会でも、活用しています。地域の商業者の方、いろいろなものに、例えば1日観光だとか、日帰り観光をやって地域の紹介をするだとかということにもつながるような事業ですので、ワークショップを中心とした清須学講座をぜひお願いします。成果物の方を、コーディネーターが作った成果物ではなくて、参加者がいろいろ考えたものということで出していただけたらと思います。

それから、マイスター制度ですけれども、商工会、商工会議所で地域検定というのを各地でやられているのですが、こういった中でもいろいろな資源を通じて認定をするということで、ガイドボランティアさんとは一線を画したような格好で、地域を知っているよというような感じで捉えてもらうということで、ぜひマイスター認定はあってもいいのではないかと思います。以上です。

事務局

ありがとうございます。続きまして山田委員様、ご意見をお願いします。

山田委員

清須学と、「学」が付いてしまうとどうしてもハードルが高くなってしまいますので、抵抗感が

あるのかなという感じはしますけれども、私はずっといろいろお話ししている中で、「清須が好きじゃ」という方がみえるんです。その言葉が私は忘れられなくて、今おっしゃったように、清須というのは非常に奥が深いです。私は、この観点で、いろいろなことで認識を、私も含めてしなくてはいけないと思っているのは、自然環境ですね。自然環境が連綿と続いて、朝日遺跡から始まって、その後に全部つながっているということですね。やっぱり、沖積平野で氾濫河川があって、洪水とともに流れが変わる、そこで台地ができました。そういったことから今の清須の地盤がありますので、こういったことを全部、丸ごと理解しておくというのは、大切なことだと思います。

皆さんご専門の方でいろいろやっておられる方がおられますけれども、そういった方の思いとか、知識とかそういったものをきちんと有機的に結び付ける。これは何らかの機会ですらないといけないと思うのですね。もったいないです。

例えば、今回も先生に来ていただいておりますけれども、例えば文化とか美の話なんかして、そういったことが興味ないと恐らく、関わることはないと思います。そういったことを、個別の方々だけではなくて、やはり地域のシビックプライドとなると地域に住んでおられる方が、先ほど言いましたように「清須が好きじゃ」と、いろいろな思いがあって、そういう方と話をするとやはり清須が本当に好きなのです。そういったことを広く市民の方々に知っていただく。そういったことを何らかの機会にやる必要があるのではないかと私は本当に思っています。

専門の方々が、特に清須以外の専門の方がみえるじゃないですか。「清須会議」の映画がありましたけれども、この土地に取材というのは非常に少なかったですね。私はこれって何だと思えます。そういった方で中央のために清須があるわけじゃないじゃないですか。専門家のための清須じゃない。ここに住んでおられる方がどう思うかが私は原点だと思うのです。研究のための対象じゃないですからね。ここはやはり、きちんと分けて、地域に住んでいる方々の思いが原点だと思いますので、そういった方々を集めて、みんなで知り合うというところが役目ではないかと思えます。

ただ、例えば清須学の定義とか、マイスターとかいろいろあると思いますが、これは答えがないので、皆さんでいろいろお話をしながら、1個1個深化させていく。今回はひとつ取っかかりでこういう形でスタートを切るというのは、やり方としては、いろいろなご意見も当然あると思いますけれども、一度やってみて、修正をして質を高めていくのも、ひとつではないかと思えます。

確かに試験は嫌いです。試験はどうだと加藤先生がおっしゃったように、抵抗感はあると思えますけれども、やはりこういったものに対して一定の水準というか、こういうふうにみられたよということは、ご自身の証ということにもなるのかなと思えます。その中からいったら、今度はこの方がキーになって、皆さんに広めていただくというようなことを、してはどうかなという感じがします。

いずれにしても、多岐にわたりますし、歴史が深うございます。特に朝日遺跡については今まであまり、愛知県の方にも言っていますけれども、広めてないです。清須の方々に広めているかとなると、私は非常に少ないと思うのですよ。歴史はメディアとかで扱うので話題になるの

ですけど、朝日遺跡については非常に限定的な話しかなかったので、ご存じない方もたくさんみえます。そういったことも、この機会に世に出すというか認識として深めるためには、大きなことかなと私は思っております。全般的なことは、そんなところでございます。

事務局

ありがとうございます。では続きまして、石田副会長、お願いします。

石田副会長

まず、率直に思ったのが、清須学の資料を見させていただいて、シビックプライドの醸成を図っていくということですが、地域の活力、地域資源を活用してシビックプライドを醸成する。実は、その上に、人口の自然増、社会増と書いてあるのですが、本来は、そこがキーになると。その一端を担っているということを見ると、非常に大きな仕事かなと思ったのが、率直なところ。仕事自体も、そういうことを目指して、最終的には誇りを持つということですね。

それから、ちょっと思ったのは、マイスターの役割として観光ガイド、それから学校、子どもたちに対するガイドということがあるのですが、ここの場に生涯学習課の栗本課長はいらっしゃるのですが、学校教育課の方がいらっしゃらないということで、それは委員になるということではなくて、マイスターの役割があるので、学校教育課にどう情報をつなぐかということなど、役割があるので、それは伝えていくことが必要ではないかなというのが、率直なところ。です。

それから、マイスターの役割としてそれ以外に、例えばもっと役割があるのかなと思っております。それは、いろいろな会議があるので、そういうところでの登用であったり、先ほど来、成果品の話があったのですが、見方を変えれば行政が作る成果品に対してマイスターの方がアドバイスする。そういうやり方でもいいのかなと。ひとつのやり方として、そういうやり方もあるのかなと思います。

それと、全く清須学とは関係ないのですが、マイスターさんがガイドをやるということはもちろんそうなのですが、それには人というもの、それから物というものが必要だと思ひまして、直接ここには関係ないかも分かりませんが、絶えず説明ができるというわけではないので、その場に行って見て理解するというのも必要ですので、そういった環境整備であるとか、今はやりなのがARというものがありますが、そういうような環境整備を併せてやっついていかないといけないのかなというところで、これは私どもも併せてやっついていく必要があるかなと思ひます。

それから、先ほど来、地域資源の絞り方ということで横井会長からお話がありました。非常に資源として多いので、それを全部、短時間の中で進めることは非常に難しいと思ひます。そこをどうやって絞るかというのは、まさしくそのとおりだと感じております。

切り口として、これは余分な話なのですが、私が資料を見させていただいた中で、例えば現代の都市というのがあったのですが、現代の美というのはなかったもので、現代の美というのも例えば庄内川からの名古屋駅ビル群の景色や、また庄内川になってしまうのですが、「赤とん

ぼ橋」ということで名古屋市の景観賞をとったものがあるとか、そういう現代の美というものがあるのかなど。また、現代の都市の中には、先ほど来、朝日遺跡の新資料館が平成32年に整備されるということで、そういうこともあるのかなと思います。

それから、テキストについては詳しい話がなかったのですが、資料を見させていただきまして、例えば清須城の中でいろいろなことがまた出てくると思うのですが、切り口として物語的な要素、例えば清須会議、ここではないのですが、それから、桶狭間の戦いであるとか、桶狭間の戦いは昨日も名古屋市の方とお話をしていたのですが、どの街道を通ったかとか、そんなことがいろいろ話題になっております。それから、枇杷島市場ができた由来とか、それから最近ですと、日本一古い歩道橋の由来とか。かつて清洲に大きいプールもあったという話ですとか、他にもいろいろ、細かいことを言えばいろいろな物語、歴史物語があると思うのですが、そういうことも掘り起こしていくと面白いのかなと思います。

それから産業では、新川の花弁栽培や、昔、清洲に県の農業試験場があったのですね。そういったお話も切り口としては面白いのかなど。

それから、武将というのがキーワードとしてないので、武将というお話。武将にもいろいろな人物がいたし、信長はもちろん、家康、先ほどの枇杷島市場を開設した方ですし、秀吉と利家でいえば庄内川の枇杷島河原でかつて遊んだという話もございます。それから、松尾芭蕉に関しては、景勝地だった枇杷島橋へ来て句を詠んだという話もあります。それから、国語学者の鈴木胤さんとか、そういったなかなか地味だけれども、すごいことをやっているという方もいらっしゃいます。それから、有名人でいくと鳥山明さんとか、そういう方も地域の生んだ偉大な人物ですので、そういった方を掘り起こすことも大事かなと思います。

それから、マイスターについて少し分からなかったのですが、どういう方を対象にしてお話をされるかということはもちろんあったのですが、講座を受ける方については、在住・在勤・在学以外にも、市外の方もというようなところ。

それから、マイスターについては、人に説明するというところで、余分な話なんですけど、接客の技術も勉強していただくのもひとつなのかなと思いました。

それから、マイスター、その上にシニアマイスターというお話もあるようなのですが、何か特典があってもいいかなど。例えば「あしがるバス」の無料乗車券とか、施設の無料券とかというところで、ご自身でそういうところに行って、自らお話をさせていただくような機会があってもいいのかな。何か特典があると、いいのかなと思います。

それから、スケジュールについて、講座の申し込みの時期がシンポジウムと重複すると思うのですが、ちょっとそこがなかったので、そこだけ、いつからかというのが分かったら教えてほしいと思います。私からは以上です。

事務局

ありがとうございます。石田副会長からご質問がありました講座の申し込みにつきましては、今おっしゃったように9月17日のシンポジウムで、こういうことをやりますということをご紹介して、それから申し込みの受け付けをさせていただくという流れで考えております。それ

は、講座のスケジュールがきちんとまだ確定してないところがございますので、次回の会議の際に、そういったところも含めて最終的に決定していきたいと思っております。それを基に申し込みの時期を9月17日以降、いつぐらいから始めるかということも含めて、検討していきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

では、続きまして、箕浦会長をお願いします。

箕浦会長

皆さんいろいろ意見をいただきまして、誠にもっともな意見ばかりで、私が言うのもおこがましいのですが、実は朝日遺跡の貝殻山貝塚の一例のことについてですが、今、「あいち山車まつり日本一協議会」というところへ一昨年ぐらいから愛知県の方から呼ばれて出ていまして、愛知県教育委員会文化財保護室と生涯学習課が関わってやっている事業なのですが、文化財保護委員の先生と話をしておりましたときに、朝日遺跡、朝日遺跡とよく言っていたのですが、現実問題、朝日遺跡の貝殻山貝塚資料館は、土日が休みなんですと、平日しか開いてないんですよということをお話ししましたら、教育委員会の方も、施設がいつ開いているかということすら知らないのですね。日曜日やってないのですかと。日本全国の図書館、博物館、美術館、いろいろなところへ行きますけれど、土日にやってないのは、恐らく貝殻山貝塚資料館だけじゃないですかと、そう言って質問したのです。すると県の方は「いや、そんなことはないはずだ」とおっしゃる。そんなことはないはずだって、私、清須に住んでいてそうだから、そうやってお願いしているのだけれど、日曜日に開けていただけませんかと言ったら、「検討させていただく」と。今は、開けていただけるようになりましたね。

事務局

5月の連休明けから、日曜日も開けるようになりました。

箕浦会長

なりました。そういうことも私、愛知県の教育委員会に言ったことがあります。その時に、意外と教育委員会の方も、帳面上だけとか机上だけでしゃべっていることが多くて、現場のことをあまり知らないことが多いのです。実際に、協議会を作ったときに、全体の把握すらできてないのです。愛知県内に山車がどのくらいあるかということだって分かっていないのです。当時、僕らが「愛知県内には、どれくらいの山車がありますか？」と聞かれたときに、大体、県に140輛くらいはあるんじゃないですかということでお話をしていたのですけれども、「愛知県にそんなにもあるんですか」という話でした。でも、実際に調べてみたら438輛もあるわけですよ。

そういうふうに、行政の上の方というのは、現場のことがあまり分かってないので、そういう意味でもこのマイスターというのは、さきほど、山田委員も言われましたけれど、まずスタートすることが一番。最初はずまらない話題かも分からないけれど、進めていく中で「こんなことも取り入れてくれるんだ」「こんなことも話題になるんだ」ということが必ず出てくるだ

ろうと思います。

現実にあいち山車まつり日本一協議会の話をしておりまして、ずっと話をしておりますと、僕らが知らない人も、僕らよりもはるかに立派な祭りもありますし、僕らが立派だと思っていたのが「なんだ、僕らの祭りより、大したことないな」というお祭りもありますしね。

この会議では、もともと祭り関係で委員と呼ばれていますので、お祭りのことでお話しさせていただきますと、日本で皆さん一番よくご存じなのは、京都の祇園祭だと思います。次に高山祭。こういうふうに山車のあるお祭りというのは、日本全国の方の頭に浮かぶと思います。では、清須の「西枇杷島まつり」が頭に浮かぶ人は、西枇杷島の人なら恐らくほとんどの人が浮かぶだろうと思いますけれども、清須全体の中で新川町の人でも、せいぜい坂町のこちらの方の人は別にして、新川町全体で見ると1割ないし2割だろうと思います。清洲に至っては1割だろうと思います。春日に至っては0コンマ台だろうと思います。悪い言い方かもしれませんが、そんなものだと僕は思っております。

だけど、現実にお祭りを見にいけますと、高山祭よりも西枇杷島のお祭りの方が優れたものが多いのです。例えば、極端なことをいいますと、高山祭に行きますと、高山祭も何輛も山車がありますけれども、現実にお囃子をやっている山車はほとんどございません。1輛だけです。あとはすべてテープです。人形も動かしません。ただ飾ってあるだけなのです。彫刻が立派か。皆さん、西枇杷島の山車の彫刻、漆細工、金細工、幕なんかを見られますと、僕は、高山より劣っているものは何一つないと思っているのです。

京都の祇園祭。祇園祭の関係者と関係ができましたので毎年行っていますけれども、京都の祇園祭も幕は立派です。でも、幕以外は西枇杷島のお祭りに勝てるものは何がありますか。僕はないと思います、正直言って。

僕たちの祭りはこうですよ、と高山の人でも京都の方でもお話ししますと、「そんな立派な祭りが、そんなところに隠れているものがあるの」という返事なんですよ。「じゃあいつペン見にいくわ」といって、高山や京都、それからいろいろなところからお祭り関係の方々が、見に来ていただけますけれども、「いや、思ったより僕らのより立派だよ」といって帰られる方が、結構お見えになります。

どういう情報発信が足りないかといいますと、あくまでも西枇杷島のお祭りは地域のお祭りではないのですね。悪い言葉で言うと、昔の町衆の祭りというか、町衆の人しかやってないお祭りのような気がしているのですよね。でも、今そんなことはどこの町内でもないと思って、誰でも受け入れるのですよね、今は。

それでもみんなが受け入れないと思っているかもしれないが、誰一人来ていただけないですね。例えばすぐ1本裏道の方だと、「やりたかったんだけど、祭り触ると怒られるといかんから嫌だ」という意見なのです。それだけ、悪い言葉で言うと先人たちは閉鎖的だったのでしょうね。財力はあったんだから、当然そんなことはお金で雇えばいいのだという考え方が基本にあったのだらうと思います。だから、あまり大々的に宣伝もしなかったし、やらなかった。

ただ、やはり今は清須市となったのだから、これからはもっと宣伝をしないといけない。今までは本当に700メートルくらいの通りで、細々とやっていたお祭りでしたから。

僕はいつも、前の観光協会の会長で商工会の会長になられた堀田さんにもよくお話しさせていただきましてけれども、例えば清須にはいろいろなお祭りがあります、「さくらまつり」や「やると祭」があります。ぜひそういうお祭りに、西枇杷島のお祭りも参加できないものだろうか。

ただ参加しようとする、「まためっちゃめっちゃお金取るからどうのこうの」と、すぐ言いますよね。僕らから見ると、すごく旧町ごとの地域意識というのがまだまだ強いんですね、清須の街は。かつての4町が合併したということで、まだそういうことも根強くあると思います。

この地域意識をいかに取っ払っていくか。そういうことからまず始めないといけません。では清須のいいところはどこなのか。旧清洲町の方が言うには「俺のところは清洲城が一番だ」と言うわけです。春日の人はどう言うか。「俺のところは宮重大根というすばらしいものがある」と。西枇杷島は「お祭りがある」と言う。こういう各地域がいろいろなことを発信するより、もっと大きな段階で市として発信しないと、いくら宮重大根が日本のダイコンの原産であるといったって、そんなことを知っている人は誰もおりません。

最も基本的なことは、やはり全体として捉えていくということに、まだこの街は長けていないのではないかという気がしています。

例えば、先ほどから織田信長の話が出ておりますけれども、僕は清洲城に来た人に説明するときに、まずは「どこからお見えになりましたか？」とよく聞くんですね。そうすると、どこどこから来ましたとおっしゃる。「その街は信長の家来が作った街ですよ」といって説明させていただくんですね。そうすると「なぜ信長の家来ですか？」と聞かれるのです。でも、実際、今、日本の大都市といわれるところの約70%は信長の子分が作っているのです。子分、もしくは子分であった方が作っているのです。だから、極端なことを言うと日本全国の大都市の70%は清須に関わった方が作っていると思っただけなんです。そのくらい清須というのは、全国にいろいろなことをやった街なのです。それが過去の街のままで、ずっと終わっているわけです。

東京は太田道灌が開いたといえど太田道灌が開いたのですけれども、実質的に作ったのは徳川家康です。徳川家康が作ったということは、家康も誰かを参考にしているわけです。それは秀吉のやった大坂を参考にしているのです。秀吉が、まちづくりを一番最初にやったのが京都ですね。京都の碁盤の目にやるといったのは、もともと織田信長ですね。織田信長が城下町づくりをきちんとやってきたわけです。それが基本にあったから秀吉はできたのです。

ですから、街づくりは、信長から始まって、日本全国へ広がったということをもう少し発信してもいいのではないかと僕は思いますね。

雑談みたいになりましたけれども、申し訳ないですが。

田中委員

箕浦さん、そうしたら今、祭りの話をさせていただいて、チラシでも尾張西枇杷島とか書いてあるね。あれを早速、清須と書いたらどうだ。旧態はなかなか直らないと思うけれど、そういうことから始めたら。あなたが山車保存会の会長さんなんだし。清須市の祭りですよというこ

とで。

「尾張西枇杷島まつり」は、200年近くやっているでしょう。パンフレットに出ている「尾張」という言葉を付けて。尾張にしないと知名度が上がらないからかもしれないが、「清須西枇杷まつり」とか、タイトルを変えたらどうだ。半分冗談ですけど。

箕浦会長

これは、なぜ「尾張」と付けたかという、あのお祭りの名前はもともと「西枇杷島まつり」だけだったのです。そうすると、当時の西枇杷島町が全国のいろいろなところにパンフレットを配っていただいたわけなのですが、「西枇杷島って、どこにあるの？」と、こういう結果なのです。「西枇杷島って、どこにあるの？」と言われても困るので、その当時の家田町長さんは、名古屋とも言えないし、愛知は広すぎるしということで、尾張という名称を付けられて、西枇杷島でやっているお祭りだから「尾張西枇杷島まつり」ということになったわけです。経緯としてはね。

それを今、「きよす西枇杷島まつり」とすると清洲ではおかしいので、やはり「清須市」にならないといけないと思うのですね。なぜかという、清洲という地名が清須にあるわけなのです。

田中委員

半分冗談です。そういう今までの、旧態を変えて、いろいろやったらどうですかということ、私は言っているだけです。

箕浦会長

それはね。「きよす」という名前を使うということについては、それはひとつのご提案としては、受け入れてもいいと僕は思います。ただ、「清須市西枇杷島まつり」というなら、僕はこれは構わないだろうと思います。ただ、「きよす」という名前で「市」が入らないと、清洲という地名が現実には清須市内にある以上、どちらのお祭りなのかということに、かえって迷われる結果になるのではないかと思います。

事務局

ありがとうございます。話も盛り上がり過ぎて尽きないところですが、本日の議題、清須学講座の内容について一巡させていただいて、たくさんのご意見を頂戴したところではございますが、時間も迫ってきました。全体的に講座については、先ほど田中委員さんの方からございまして、回数が少ないのではないかという意見もございまして、石田副会長さんの方からは、こういった内容のものも追加で入れてみてはどうかというご意見もいろいろ頂戴したところがございます。

マイスターにつきましては、マイスターという称号については皆さんいいかなというところで、ただ、認定方法とか試験についてご意見いただいたところがございますので、その辺り内

容を精査させていただきまして、次回の会議までに、方向性の方をお示しさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

山田委員

実は、田中さんのお話を聞いて、まさしく今のところに関わるのですけれど、マイスターの役割ですね。既存のガイドでやっておられる方との関係ですね。私は全然知らなかったのですが、当初からの方々は20回くらいの講座を受けられて、試験をやられてからガイドになられていますね。

養成講座がなくなった後、新しくガイドをやりたいという方は、どうされておられるのですか。

加藤（暉）委員

そういう養成講座もないし、試験もないです。そういう方もみえます。

山田委員

では、ボランティアをやりたいなという方については、勉強はどうされているのですか。

加藤（暉）委員

受け入れてから、みんなで教えていますよ。

田中委員

養成講座の第1期生と第2期生は、教育委員会に修了証明名簿があると思うのですが、今いましたように、2回しか講座をやってくれないものだから、あとが続かないので、だんだん人も減っています。中には、講座を受けずにガイドをやっている方もいますけれども、そういう認定制度はないです。

山田委員

そこの関係ですよ。

田中委員

どうするかというね。

山田委員

ガイドさんをやっておられて、新たにマイスターができました。どういう関係があるのか。逆にいえば、資格試験みたいになってしまって、それがないとできないとかいうふうになるとこれもどうかなというのがあります。

田中委員

どうするかと。だからさっき、10人しかいかんといったら、あと30人のそういう資格がない人はどうするのかと言っているのですよ。私どもは全部来てほしいわけですよ。その資格があるからではなく。もちろん、あった方がいいのでしょうけれど、ない方も受入れたい。

山田委員

その辺りの整理が必要ですね。今回マイスターとどうやって整理をつけて、何のためにマイスターが、どういう役割を発揮していただくというのは、ちょっと整理が必要かかなと、お話を聞いていてそう思いました。

田中委員

今やっている人はどうするか。

山田委員

そうです。今やっている方。

田中委員

逆に、改めて試験を受けるのか。

山田委員

そうなっちゃいます。

田中委員

先生言われたように、試験があんまり好きじゃないですね、私らも。改めて受けろといったら受からないかも分からないですよ。実学は知っているのだけれども、ペーパーテストはダメかも分からないよ。試験をやられたら、受からない。ガイドボランティアの会長、副会長がマイスター試験に滑りましたなんてことが、あるかも分かりません。

山田委員

2ページのところに「人材のマッチング」というところで、一番上から3つ目の黒ポツがありますね。「『マイスター』認定者に対して、『清須市ガイドボランティア』を軸として、既存団体を斡旋する」という表現ですね。これは、どのような理由で。

事務局

お答えいたします。具体的な方法につきましては、当然ガイドボランティア様にも事前にご相談をかけながら、一番最適な方法を模索することが望ましいと思いますが、他の自治体で行なっている既存のボランティア団体様への斡旋の方法としては、こういった修了試験なんかを

やる際にチラシとか応募用紙を同時に配布して、最初のガイダンスでご紹介をする。任意で、よろしければご登録をお願いしますという呼びかけを行なっていると伺っております。

本市におきましても、そういった方法等を参考にしながら、また、他市町での最新のやり方なんかも情報収集を図りまして、横井会長様はじめガイドボランティアの、特にこの会議の委員の方を中心にしっかりと事前に意見をお伺いした上で進めてまいりたいと考えております。

山田委員

余談ですけど、実は遠方に行きまして、ガイドの方に説明してもらったのです。誠にいいですよ。書類や案内書を見て言っているのと全然違いますから。やっぱり肉声でご説明いただくのが極めて大事だと思います。そういうことを実感したものですから。

3 開会

事務局

ありがとうございます。それでは、次回は、資料5の方でスケジュールの方をお示しさせていただきましたが、第2回目の会議を8月26日ということで決めさせていただいておりますので、金曜日になりますが、午前10時から、今度会場が変わりまして清洲市民センター3階の303会議室において会議を開催させていただきたいと思っております。その際に、今の講座とマイスターの基本的な方向性をお示ししたいと思っておりますので、また今回のように事前に資料の方を送付させていただいて、お目通しいただけるようにご準備をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

本日、会議の中で説明を割愛させていただきましたが、資料4、及びA4のチラシの方を配付させていただいておりますが、清須学講座を開講するに当たりまして、こういう講座にぜひ皆さん来てくださいねというご案内も含めて、シンポジウムの方を9月17日土曜日に開催を、春日公民館で開催させていただきます。今回この会議にご参加いただいている委員さんにおかれましても、ぜひ、お時間が合えばご出席いただくだけでなく、関係の方にこういうのがあるということを宣伝していただいて、ぜひご出席いただける方をご紹介いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

本日、長時間になりましたが、最後に何かまたご意見、全体的なことでも結構ですので、ご意見がございましたら承りたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

山田委員

次回、業務の関係で欠席させていただきます。申し訳ございません。

事務局

では、他にもないようですので、第1回目の会議を終了させていただきたいと思っております。

どうもお忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございました。

以 上